

日本都市計画学会

学 会 賞

特別功勞表彰 功績賞・国際交流賞

2017年 年間優秀論文賞

受賞一覧ならびに授賞理由書

公益社団法人

日本都市計画学会

# 目 次

## 1. 学会賞

1) 受賞者・受賞作品 .....	1
2) 選考経過 .....	2
3) 授賞理由	
(1) 論文賞 .....	3
(2) 論文奨励賞 .....	4
(3) 計画設計賞 .....	6

## 2. 特別功勞表彰 功績賞・国際交流賞

1) 選考経過 .....	7
---------------	---

## 3. 2017年 年間優秀論文賞

1) 受賞論文 .....	9
2) 選考経過 .....	10
3) 授賞理由 .....	11

## 報告事項（その3）日本都市計画学会 学会賞受賞者

(受賞者敬称略)

### <論文賞>

近代の城址における公園化と風致に関する研究

野中 勝利

### <論文奨励賞>

地域モビリティを育てる「Co 交通」の形成に関する研究

村上 早紀子

広域景観の形成に資する公共政策に関する研究：北海道の札幌圏と帯広圏を事例に

山崎 嵩拓

時空間の広がりを踏まえた環境バランス改善策の方法論

-エコロジカル・フットプリントを活用して-

陳 鶴

社会的不利地域における地域組織による包摂的まちづくりに関する研究

-大阪市・台北市における実践的事例を中心に-

蕭 閔偉

A Markovian route choice analysis for trajectory-based urban planning

行動軌跡に基づく都市計画のためのマルコフ型経路選択分析

大山 雄己

豊かな緑量を担保する持続的都市景域管理の研究

-名古屋市を対象として-

川口 暢子

大都市郊外縮減都市における豊かな市街地再生方策に関する研究

吉武 俊一郎

### <計画設計賞>

環状第二号線新橋・虎ノ門地区 III 街区 (虎ノ門ヒルズ)

東京都都市整備局

元 環二地区再開発協議会虎ノ門街区部会長 松本 栄一

森ビル株式会社代表取締役社長 辻 慎吾

株式会社日本設計 越川 裕康

# 日本都市計画学会

## 学会賞 選考経過

2017年度学会賞は、会員が推薦した石川賞候補1件、論文賞候補5件、論文奨励賞候補10件、計画設計賞候補1件、計17件が審査の対象となった。

表彰委員会（学会賞選考分科会・委員全18名）は各々の候補の業績について複数の担当審査委員が独立に査読および調査を実施し、各委員から提出された評価にもとづき、分科会で慎重に検討の結果、授賞候補を選定した。

特に評価の分かれた案件については委員会席上でその結果を照合、討論、協議し、分科会の最終審査結果とした。さらに分科会の審査結果を理事会に諮って、論文賞1件、論文奨励賞7件、計画設計賞1件の授賞を決定した。

---

### (参考)各賞の授賞対象

#### 論文賞

都市計画の進歩、発展に顕著な貢献を認められる研究論文を近年（概ね過去3年以内）発表した会員（個人）を対象とする。

#### 論文奨励賞

都市計画に関する将来性・発展性が顕著な研究論文を最近（過去1年以内）発表した会員（個人）を対象とする。

#### 計画設計賞

都市計画に関する計画、設計、事業などに関する近年（概ね過去3年以内）の作品で、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をしたものを対象とする。

論文賞	
受賞者	野中 勝利
作品名	近代の城址における公園化と風致に関する研究
授賞理由	<p>このたび、あらたに総括も付記して整理・合本して提出された氏の一連の研究は、城址が、明治以後どのような経緯をたどり、都市公園に移行したかについて詳細に明らかにしたものである。その注目すべき知見は主として以下の3点である。</p> <p>①経緯は3通りに整理(廃城後ほどなく公園化したもの、軍用地として存続したが払い下げられて公園化したもの、貸与後に公園化したもの)されるとし、それぞれのケースにおける個別の城址公園の成立過程を詳細に調査、解明したこと。②成立過程の分析の中で、城址の持つ風致の維持と近代的公園施設設置の要請との調停をめぐる議論を整理、解明したこと。③城址公園成立における長岡安平と本多静六の影響、議会や市民運動の地域的な差異とその影響を解明したこと。</p> <p>わが国において公園化された城址公園のほとんどを視野に入れつつ、氏が、設置当時の議会議事録、公文書、報道記事の調査・分析を踏まえて記述した対象は17公園にのぼる。その内容は、近代都市計画の中で大きな役割を占めた城址公園の成立記録として類を見ないほど精密なもので、今後これを上回るものが期待できない水準に達している。以上から、氏の一連の研究は、日本都市計画学会論文賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	村上 早紀子
作品名	地域モビリティを育てる「Co 交通」の形成に関する研究
授賞理由	<p>本論文は、主に過疎地や交通不便地域における公共交通の在り方に関して、住民・行政・事業者の共同による新たな地域公共交通のシステムを育てていく仕組みに関する論文である。具体的には全国の数多くの実践事例について詳細に調査し、持続可能性を持った協働ベースの公共交通の在り方を示したものである。さらに持続可能性を持つ取り組みを理解するために、「Co 交通」というネーミングを行い、取り組み自体の概念整理を行ったことで、状況に応じた取り組みのあるべき姿を理解しやすくした。さらには交通サービスの提供にとどまらない事業を維持する仕組みについても様々な事例を示し、今後の取り組みの参考になる整理を行った。</p> <p>以上のように、様々な地方の都市計画施策において重要な役割を持つ公共交通計画に非常に有益な論文であり、今後の研究の発展性も高い。よって本論文は、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しい内容を十分に有していると判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	山崎 嵩拓
作品名	広域景観の形成に資する公共政策に関する研究：北海道の札幌圏と帯広圏を事例に
授賞理由	<p>本論文は、広域景観に着目して、広域景観形成に公共政策が与える影響を解明することを目的としている。本論文の特徴は、土地の境界線を越えて連続する道路と河川を視点場とした調査を実施している点、大規模な産業施設等、行政境界と土地利用区分という境界線を越えて出現する景観要素に、企業誘致といった公共政策が与える影響について精緻な実態調査に基づき考察している点にある。良好な広域景観の形成に資する方策を示すという観点からは、権限配分との関係など、今後の検討に求められるところも少なくないが、上記のような特徴をもってまとめられた本論文は、行政境界と土地利用区分を超え、複数の施策を連携して良好な景観形成に向けて政策を運用する際への貢献が期待でき、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	陳 鶴
作品名	時空間の広がりを踏まえた環境バランス改善策の方法論 -エコロジカル・フットプリントを活用して-
授賞理由	<p>本論文は、地域ごとの「環境バランス」を評価する手法を提案し、地域別に持続可能社会の実現に向けて行うべき施策を提案している。第一に、エコロジカル・フットプリント指標を用いて地域の環境バランスを評価する提案手法は、新規性とともにも簡潔で分かりやすいところが優れている。また、手法において入手が容易な公開データを用いるところも評価できる。第二に、行政圏域を単位として、時間や「潜在的改善可能性」も考慮して、地域の環境評価を行おうというやり方が興味深い。事例研究も一定程度の期間にわたる丁寧な分析がなされている。第三に、論文記述が簡潔で分かりやすく読みやすい。以上の理由から本論文は、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	蕭 閔偉
作品名	社会的不利地域における地域組織による包摂的まちづくりに関する研究 -大阪市・台北市における実践的事例を中心に-
授賞理由	<p>本論文は、「社会的不利地域において展開される地域組織による、社会的弱者である住民を対象とする居住を基盤においた、地域に密着した社会参加、就労、健康、教育等に関する取り組み」を「包摂的まちづくり」と定義し、大阪市と台北市を対象として事例研究を行ったものである。既往研究の整理と理論構成、調査方法、その結果として生まれた結論について丁寧な考察と手堅い判断を積み上げ、包摂的まちづくりの取り組みは、住民や地域組織の自立を促し、さらにそれによって自立した住民や組織が社会参加や地域貢献をすることによって好循環が生まれることを明らかにするとともに、今後の課題も示している。</p> <p>フィールドに深く入り込み信頼関係を構築しながら調査に当たったことは高く評価でき、フィールドワークを継続することにより今後の発展性が期待できる。以上より、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	大山 雄己
作品名	A Markovian route choice analysis for trajectory-based urban planning 行動軌跡に基づく都市計画のためのマルコフ型経路選択分析
授賞理由	<p>本論文は、歩行者の行動軌跡を携帯端末等から取得し、その周遊行動を逐次的に次の経路を選ぶマルコフ型経路選択モデルにより分析する方法論を提案しており、経路選択モデルにおける効用項を勘案することで、回遊空間となる歩行者街路の計画・設計に活用する手順を示しており、都市計画に顕著な貢献をなしている。</p> <p>逐次的に次の経路を選ぶマルコフ型経路選択モデルでは、一連の回遊を経て既に通過した街路を選択するという「周回経路」が含まれてしまい、ある選択枝の効用値が周回後の同じ選択枝の効用を含む入れ子状の構造を持つため、計算負荷が大きくなるという課題を持っている。本論文は時間制約の概念を導入することによってこの入れ子状の構造を制約し、実用的な計算が行えるようにしたところに特徴がある。</p> <p>以上のように、本論文は学術上の価値が高く、応用性も広い優れた研究であることから、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	川口 暢子
作品名	豊かな緑量を担保する持続的都市景域管理の研究 -名古屋市を対象として-
授賞理由	<p>本論文の最も大きな特徴と成果は「景域管理作業量」という独自の概念を提案し、その計測と分析を大規模自治体である名古屋市を対象として試みた点にある。具体的には、まず街区単位での非建蔽地および緑化の状態の変化を市全域で定量的に把握、可視化し、その上で「景域管理作業量」を算出し、これをもとに法制上の緑地の確保手法の分類ごとに当該作業量を求めて今後の持続的緑地管理の課題を論じている。データ分析に多大な労力がつぎ込まれた労作であり、また「景域管理作業量」の算出手法は、緑地確保のための都市計画制度を適用した場合に発生する管理のためのコストを示す原単位として新規性と有用性が高い。そのためにも本概念の深化と空間情報データ分析手法としての汎用性に向けて一層の発展が期待される。以上より、日本都市計画学会論文奨励賞として相応しいと判断した。</p>

## 論文奨励賞

受賞者	吉武 俊一郎
作品名	大都市郊外縮減都市における豊かな市街地再生方策に関する研究
授賞理由	<p>本論文は、市街地の縮小と人口減少による低密度化を合わせた概念を「縮減」と位置づけ、「豊かさ」に着目して、横須賀市の谷戸地域をスタディ対象として、縮減都市における市街地再生方策を論じている。今後、各地で直面する人口減少とそれによる市街地縮小と低密度化を、「豊かな」市街地再生へのチャンスと捉える価値の転換を行い、地理的条件の分析や関係者へのきめ細かなアンケート・ヒアリングを通して、地域価値に恵まれた豊かな市街地として再生する方策を提示している。さらに、地域の視点からのボトムアップ型まちづくりを都市構造再編に組み込む必要性や、地域力（社会関係資本）を採り入れた都市計画の方向性や地域マネジメントのあり方、不動産市場喚起型のビジネスモデルの可能性などを示唆しており、これらは総合的に高く評価できる。よって本論文は、日本都市計画学会論文奨励賞として相応しいと判断した。</p>

## 計画設計賞

受賞者	<p>東京都都市整備局 元 環二地区再開発協議会虎ノ門街区部会長 松本 栄一 森ビル株式会社代表取締役社長 辻 慎吾 株式会社日本設計 越川 裕康</p>
作品名	環状第二号線新橋・虎ノ門地区 III 街区(虎ノ門ヒルズ)
授賞理由	<p>本計画は、立体道路制度を活用することにより、都市計画道路環状第二号線と大規模複合施設（虎ノ門ヒルズ）の整備および建設を同時に、東京都施行の市街地再開発事業によって実現している。長期間開発が停滞していた新橋・虎ノ門間において、官民連携により、都心部と臨海部を結ぶ重要な骨格を開通させるとともに、高次都市機能の集積を実現させた意義は大きく、(仮称)日比谷線新駅の整備等、虎ノ門エリア全体としての都市機能更新を先導する役割を担っている。虎ノ門ヒルズの低層部分には緑地や広場が整備され、周辺部と呼応したオープンスペースが創出されている点も評価できる。さらに、環状第二号線地上部道路（新虎通り）沿いは、歩道上での賑わいをもたらすエリアマネジメントの活動の場ともなっている。</p> <p>以上、都市計画実現への貢献、良好なアーバンデザイン、積極的なエリアマネジメントへの取り組みの3点から、計画設計賞に相応しいプロジェクトであると判断した。</p>



## 日本都市計画学会

### 特別功労表彰 功績賞・国際交流賞 選考経過

2018年日本都市計画学会特別功労表彰 功績賞・国際交流賞は、理事・監事・会長アドバイザー一会議メンバー各位に候補者の推薦を募ったが、候補者の提示がなかった。表彰委員会にて選考を検討したが、本年度は対象無しとした。



# 日本都市計画学会 2017 年年間優秀論文賞受賞論文

(受賞者敬称略)

密集市街地の民有地を暫定利用する防災空地の評価手法の検討

-神戸市「まちなか防災空地整備事業」を対象として-

三好 章太、嘉名 光市、佐久間 康富

ミャンマー国ヤンゴンにおける公園成立の歴史的経緯

-植民期、軍事政権期、民政移管期における時代背景と整備意図-

平野 邦臣、横張 真

条里制集落居住域における中世から継承された「文化的景観」の特徴

-安曇川沖積平野（木津荘, 滋賀県）を対象として-

小谷 裕枝

大都市圏向け統合モビリティサービス Metro-MaaS の提案と需要評価

-自動運転車によるオンデマンドバスと既存公共交通の将来的な統合を目指して-

藤垣 洋平、高見 淳史、Troncoso Parady Giancarlos、原田 昇

都市環境はいかにシビックプライドを高めるか

-今治市を事例とした実証分析-

伊藤 香織

市民主体のハード整備をともなう公共空間活用の課題と意義

杉田 早苗、田中 麻理子、土井 良浩

東京オリンピック・メインスタジアムへの観戦客に対する新宿御苑を活用した動線計画

-時間拡大ネットワークを用いた徒歩流動モデルによる評価-

渡部 大輔、鳥海 重喜、田口 東

道路斜線制限と天空率緩和がもたらす容積率と建築物高さへの影響

渡部 宇子、本間 裕大、本間 健太郎、今井 公太郎

## 日本都市計画学会

### 2017年 年間優秀論文賞 選考経過

2017年年間優秀論文賞は、当該年の1月から12月に発表された、発表会論文156編・一般研究論文26編、計182編の中から優れた内容を有する論文を学術委員会にて慎重に検討を重ね、授賞候補を選定した。さらに候補選定結果を理事会に諮って、8編の授賞が決定した。

---

#### (参考)表彰対象

##### 1. 表彰対象

論文

##### 2. 表彰のための選考対象となる論文

表彰当該年の1月から12月に発表された発表会論文及び一般研究論文

論文名	密集市街地の民有地を暫定利用する防災空地の評価手法の検討 -神戸市「まちなか防災空地整備事業」を対象として-
著者	三好 章太・嘉名 光市・佐久間 康富
授賞理由	本研究は、神戸市のまちなか防災空地整備事業を事例に、木造密集市街地に点在する空地を暫定利用した防災空地の整備の効果を明らかにするものである。①暫定的な防災空地であっても都市施設を補完する機能を有すること、②空地の整備を通じた地域の交流や魅力向上に繋がっていること、③不燃領域率や接道率などの数量的な防災指標が向上していること、④緑化事業や細街路整備事業等との組み合わせによる展開が可能なことを明らかにしている。詳細な現地調査や行政担当者・住民へのヒアリングを通じ、道路や公園といった都市施設の整備が難しい地区において、道路環境の改善や空地面積の確保に繋がっている実態を明らかにした点が評価できる。

論文名	大都市圏向け統合モビリティサービス Metro-MaaS の提案と需要評価 -自動運転車によるオンデマンドバスと既存公共交通の将来的な統合を目指して-
著者	藤垣 洋平・高見 淳史・Troncoso Parady Giancarlo・原田 昇
授賞理由	本論文は、保有自動車による移動に代替する大都市圏向け統合モビリティサービスを提案し、利用意向調査により需要特性を評価した論文である。評価できる点としては、第一に、サービスを一体的に提案した点があげられる。第二に、アンケート調査に基づいて個人属性、居住地などが利用意向へ及ぼす影響を分析し、有用な示唆を得ている点があげられる。新しい都市交通サービス Metro-MaaS を提案し、十分な研究レビューに基づき適切な手法によってその需要分析を行っている。課題設定が明確で、図表等の表現が分かりやすく、論文としての完結性、新規性が高い。

論文名	道路斜線制限と天空率緩和がもたらす容積率と建築物高さへの影響
著者	渡部 宇子・本間 裕大・本間 健太郎・今井 公太郎
授賞理由	本論文は、道路斜線制限と天空率緩和を、許容容積率の消化と建築物の高さという観点から比較したものである。本論文の第一の長所は、道路斜線制限と天空率緩和を直接比較して理論的に論じた点である。それぞれ個別に扱った研究は少なくないが、制約条件としての性能を相互比較するという視点は斬新である。第二は、非常に実用的な情報を理論的裏付けに基づいて提供している点である。天空率の計算費用に見合った敷地条件を提示することで、設計初期段階の作業は大きく効率化されるものと期待できる。

論文名	ミャンマー国ヤンゴンにおける公園成立の歴史的経緯 -植民期、軍事政権期、民政移管期における時代背景と整備意図-
著者	平野 邦臣・横張 真
授賞理由	本論文は、ミャンマー国ヤンゴンの公園整備の歴史的経緯を、資料の収集・整理、行政ヒアリング調査によって明らかにした論文である。政治体制の変化により、公園の整備の方針や意図が異なることを示し、現在の公園の成立時期とその時代背景を示したことは高く評価出来る。また、ヤンゴンの公園整備に関する基礎的情報を、資料に制約があるなか、網羅的に整理した地道な作業と、資料の乏しい軍事政権下の公園整備の実態解明に挑戦した点も評価できる。

論文名	条里制集落居住域における中世から継承された「文化的景観」の特徴 -安曇川沖積平野(木津荘, 滋賀県)を対象として-
著者	小谷 裕枝
授賞理由	本論文は、歴史地理学、環境史学、建築学、造園学等の幅広い分野の歴史研究の成果を基盤としながら、中世から継承された文化的景観の本質を膨大な分析作業により捉えようとしたものであり、非常にチャレンジングなテーマ設定をし、それに実直に取り組んだ研究として評価ができる。分析方法が独創的であり、現代に継承された中世の景観要素の意味を明らかにする本研究は、景観研究分野に一石を投じる価値のある研究として評価できると考えられる。

<b>論文名</b>	都市環境はいかにシビックプライドを高めるか -今治市を事例とした実証分析-
<b>著者</b>	伊藤 香織
<b>授賞理由</b>	本論文は、「シビックプライド」という概念を科学的に検討する試みであり、心理尺度構成法の基本的な方法論に準拠した信頼のおける分析および論証を経て、都市計画やまちづくりの基本理念の明確化に寄与する論文である。評価できる点としては、第一に、概念の構築されてきた背景を丹念な調査と整理によって明快に記述をし、それを根拠に一般化する評価指標を設定できている点あげられる。第二に、共分散構造分析などによる心理尺度構成法の方法論によってケーススタディとしての実例を対象に概念を分析し、具体的な構造的解釈を得るなど、有用な示唆を得ている点あげられる。

<b>論文名</b>	市民主体のハード整備をとまなう公共空間活用の課題と意義
<b>著者</b>	杉田 早苗・田中 麻理子・土井 良浩
<b>授賞理由</b>	本論文は、市民によるまちづくり活動がハード面に広がりを見せている現状を捉え、その実態と課題を把握しようとした研究である。市民が主体となってハード整備に関与することの意義や課題を具体の事例を通じて明らかにしている点は、今後のまちづくりに寄与する知見を提示しており高く評価される。特に、研究対象としているハード整備助成事業に着目したのは、事例選定基準の統一性があり、かつ網羅的、数量的にも有効と言える。また、調査・分析も丁寧に行われており、論旨の展開をはじめ図表のまとめ方も他研究者の参考になるだろう。

<b>論文名</b>	東京オリンピック・メインスタジアムへの観戦客に対する新宿御苑を活用した動線計画 -時間拡大ネットワークを用いた徒歩流動モデルによる評価-
<b>著者</b>	渡部 大輔・鳥海 重喜・田口 東
<b>授賞理由</b>	本論文は、東京オリンピックのメイン会場へのアクセスの混雑解消のために、新宿駅周辺から会場までの歩行者ルートに新宿御苑を活用する提案をしたうえで、その効果を時間拡大ネットワークによって評価したものである。時間拡大ネットワークを用いて、新宿御苑の活用計画の効果を具体的に検証した点が優れているオリンピック時の混雑解消に対して、数理的な根拠を伴って具体的に提案がなされた点は大いに評価でき、十分に実用性の高い結果が得られると期待される点である。